

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	介護とコミュニケーション		担当教員  (実務経験)	中川 幸子  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護支援専門員として居宅介護支援事業所に勤務		
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用等の人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォローアップ等、チーム運営の基本を修得する。					
到達目標	介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を修得する。					
テキスト・参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座1 人間の理解 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	70%	その他については、授業への取り組み、グループワーク参加状況などを総合して評価します。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	30%				
履修上の留意事項						
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	介護実践におけるチームマネジメント	介護実践におけるチームマネジメントの意義			
	2	ヒューマンサービスとしての介護サービス	ヒューマンサービスの特徴・特性			
	3	介護現場で求められるチームマネジメント	マネジメントとチームマネジメント			
	4	介護実践におけるチームマネジメントの取り組み①	ケアを展開するために必要なチームとその取り組み①			
	5	介護実践におけるチームマネジメントの取り組み②	ケアを展開するために必要なチームとその取り組み②			
	6	ケアを展開するためのチームマネジメント①	チームでケアをするためのマネジメント			
	7	ケアを展開するためのチームマネジメント②	チーム力を最大化するためのマネジメント			
	8	リーダーシップとフォローアップ	リーダーシップとフォローアップの実際			
	9	人材育成の教育体系の実際①	介護福祉職のキャリア			
	10	人材育成の教育体系の実際②	キャリアパスとキャリアデザイン			
	11	介護福祉職のキャリア支援・開発	OJT、Off-JT、自己研鑽に必要な姿勢			
	12	組織の目標達成のためのチームマネジメント	介護サービスを支える組織の構造			
	13	福祉サービスの組織の機能と役割	介護サービスを支える組織の機能と役割			
	14	組織の構造と管理・コンプライアンス	介護サービスを支える組織の管理			
15	まとめ	まとめ				

授業科目 (科目ID)	介護保険と社会保障制度		担当教員	中村 さやか	
			(実務経験)	有 <input type="checkbox"/>	無 <input checked="" type="checkbox"/>
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	本科目では、我が国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、仕組みについて理解します。また、介護保険制度と障害者自立支援制度について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得します。				
到達目標	社会保障制度についてしくみを理解し、各制度について説明することができる。 介護保険制度や障害者総合支援制度について説明することができる。				
テキスト・参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座2 社会の理解 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	定期試験、グループディスカッションの積極的な姿勢(発言、相手の意見への理解)を総合的に判断して評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	20%			
履修上の留意事項	本講義は教科書と配布資料を使用して進めていきます。資料の整理をしっかりと行うこと、また、分からないところはすぐに解消するという事を心がけて授業に参加してください。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	授業の展開、履修上の留意点、社会保障の基本的な考え方		
	2	社会保障制度	社会保障制度のしくみと歴史		
	3	社会保障制度	年金保険制度の概要		
	4	社会保障制度	医療保険制度の概要		
	5	社会保障制度	その他の社会保険と社会扶助		
	6	高齢者保健福祉と介護保険制度	高齢者保健福祉の動向、介護保険制度創設の目的		
	7	高齢者保健福祉と介護保険制度	介護保険制度のしくみ①保険者、被保険者、要介護認定の流れと利用者負担		
	8	高齢者保健福祉と介護保険制度	介護保険制度のしくみ②介護保険給付の種類		
	9	高齢者保健福祉と介護保険制度	介護保険制度のしくみ③介護サービスの内容		
	10	高齢者保健福祉と介護保険制度	介護保険制度のしくみ④地域支援事業、地域包括ケアシステム、関係組織とその役割		
	11	障害者保健福祉と障害者総合支援制度	障害者の自立と障害者自立支援制度の目的		
	12	障害者保健福祉と障害者総合支援制度	障害者自立支援制度のしくみ①障害者総合支援法の概要		
	13	障害者保健福祉と障害者総合支援制度	障害者自立支援制度のしくみ②サービス利用の流れ		
	14	障害者保健福祉と障害者総合支援制度	障害者自立支援制度のしくみ③サービスの種類と内容		
15	まとめ	講義のまとめと復習			

授業科目 (科目ID)	くらしと法律	担当教員  (実務経験)	鈴木 道代  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	生活者として、生活を支援する者として役立つ法律の知識・仕組みを身につけることを目的とする。				
到達目標	①人権意識をそなえるための法の考え方や仕組みを理解し、説明できる。②日常生活を営むのに関連する法律の知識・仕組みを理解し、説明できる。③介護福祉の対象者を支援する際に役立つ法律の知識・仕組みを理解し、説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	(参考図書)『最新・介護福祉士養成講座2 社会の理解 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	定期試験、グループワークへの参加態度、ワークシートの内容等を総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
その他	20%				
履修上の 留意事項	プリント、参考資料を使用します。参考資料を毎回持参してください。・毎回プリントを配布します。ノート代わりのプリントは各自で整理しファイルしてください。・各テーマ終了時に、確認問題を実施します。学生の理解度の確認、復習に役立ててください。・日常生活で見聞する社会・介護福祉、労働のあり方といった情報に関心を向けてください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション、くらしと法律	・シラバスから授業計画、評価方法の確認 ・くらしに関連する法律		
	2	憲法	・憲法の概要と基本的人権		
	3	虐待に関連する法律	・高齢者虐待防止法、障害者虐待防止法		
	4	生活困窮に関する法律	・生活困窮者自立支援法、生活保護法		
	5	障害者福祉に関連する法律	・障害概念と障害者福祉に関連する法律		
	6	個人情報保護法	・個人情報保護法の概要とプライバシー権		
	7	民法①	・民法の基本的考え方、契約の概要		
	8	民法②	・援助者の法的責任と苦情解決(社会福祉法)		
	9	民法③	・夫婦、親子に関する法律		
	10	民法④	・相続、遺言に関する法律		
	11	成年後見制度①	・法定後見制度の概要		
	12	成年後見制度②	・権限と義務、最近の動向と課題		
	13	成年後見制度③	・任意後見制度の概要		
	14	日常生活自立支援事業	・日常生活自立支援事業の概要		
15	労働に関する法律	・ハラスメントの概念			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	生活と文化	担当教員  (実務経験)	田中 賢治  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護福祉士として介護老人保健施設に勤務		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	様々な生活文化、価値観を背景とした人々の生活を理解しながら、共生社会の理解や、国際的な多文化共生を理解し、生活および文化の創造に貢献できるような教養を養う。				
到達目標	介護支援対象者の生活文化及び社会的ニーズに配慮した関わりができるようになるための教養を習得する。				
テキスト・ 参考図書等	北海道の歴史と福祉(北海道社会福祉史研究会) その他適宜プリント教材を活用する。				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	レポート、提出物、授業への参加姿勢などを総合的に評価します。		
	レポート	30%			
	小テスト	10%			
	提出物	30%			
	その他	30%			
履修上の 留意事項	講義や各専門分野の講師による講話、実例体験を通じて多種多様な文化と生活があることを一緒に学びたいと思います。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	北海道の生活文化①	北海道開拓の歴史		
	2	北海道の生活文化②	アイヌの生活文化、同和政策と展望		
	3	北海道の生活文化③	本州と北海道の生活文化		
	4	社会の多様性の理解①	障害を抱えた人の生活理解		
	5	社会の多様性の理解②	障害を抱えた人の社会参加の実際		
	6	社会貢献ボランティア①	学外ボランティア活動①		
	7	社会貢献ボランティア②	学外ボランティア活動②		
	8	伝承遊び	日本の伝承遊び体験		
	9	多文化理解①	各国の生活と遊び(グループワーク)		
	10	多文化理解②	各国の生活と遊び(グループワーク)		
	11	多文化理解③	各国の生活と遊び(発表・体験)		
	12	日本と国際文化体験①	日本と世界の食文化の体験		
	13	日本と国際文化体験②	日本と世界の食文化の体験		
	14	地域交流①	地域交流事業参加		
15	地域交流②	地域交流事業参加			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	活動と表現		担当教員	高橋 綾	
			(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>	介護福祉士としてケアハウスに勤務
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	介護福祉対象者の日常生活の中にある様々な余暇活動の目的と実践方法を学び、介護福祉士に必要な生活支援の実践を支えるための教養を高める。また活動を通して支援者自身の心身の健康と安全を保持するための知識を養う。				
到達目標	介護福祉対象者の生活に存在する楽しみを理解し、基礎的な実践方法を身に付け、応用的思考ができるようになる。また多様な表現方法を学ぶことで、生活支援者としての「表現する活動」と「伝える活動」の実践方法を習得する。				
テキスト・参考図書等	教科書は使用せず、適宜プリントを活用する。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	授業への取り組み、グループワーク参加状況、実技などを総合して評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	100%			
履修上の留意事項	各専門分野の講師による講話と実践体験を通じた授業を展開します。積極的な姿勢で参加してください。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション(高橋) 音楽活動の基本(櫻井)	授業展開・評価について 歌唱の基本 楽器の使用方法について		
	2	音楽活動の実際(櫻井)	歌唱(童謡・唱歌・日本の歌)、合奏		
	3	音楽活動の実際(櫻井)	活動発表と振り返り		
	4	言語表現の基本(浦島)	ことばを活用した表現の基本		
	5	言語表現の実際(浦島)	読み聞かせ、紙芝居の実際		
	6	創作活動①(平原)	折り紙、切り紙①		
	7	創作活動②(平原)	折り紙、切り紙②		
	8	創作活動③(平原)	カード作成①		
	9	創作活動④(平原)	カード作成②		
	10	創作活動⑤(平原)	ちぎり絵①		
	11	創作活動⑥(平原)	ちぎり絵②		
	12	運動活動と健康管理(上山)	介護者の姿勢と健康管理の基礎知識		
	13	運動活動の基本(上山)	介護者の健康管理と運動実践方法		
	14	運動活動の実際①(上山)	実践方法の検討(グループワーク)		
15	運動活動の実際②(上山) まとめ(高橋)	実践発表、振り返り カリキュラムの総まとめ			



授業科目 (科目ID)	介護の基本Ⅲ		担当教員  (実務経験)	高橋 銀司  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護福祉士として訪問介護事業所に勤務	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	より質の高い介護福祉士となるために、介護現場における連携の在り方を基礎から応用まで学習する。				
到達目標	あらゆる事態を想定し、利用者の最善の利益を考えることのできる視野を「多職種連携・協働」から学び、持続可能な介護福祉士としての素養を身につける。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ 第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	定期試験、提出物、その他(平常点)など総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	30%			
	その他	10%			
履修上の 留意事項	テキストを基本とし、板書・プリント・視聴覚機器による学習を行います。当該科目は、これまで学んできたことへの応用や実践知識の展開がなされています。多角度から物事を捉えられるように、柔軟な発想が出来るよう心がけましょう。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	介護実践における連携について		
	2	第4章 協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働の必要性	多職種連携・協働とは 多職種・連携を要請する社会の動き		
	3	第4章 協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働の必要性	なぜ、多職種連携・協働が必要なのか 多職種連携・協働が阻むもの		
	4	第4章 協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働の必要性	多職種連携・協働の効果 (演習)多職種連携・協働と社会の動きについて		
	5	第4章 協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働に求められる基本的な能力	介護現場での多職種連携が必要とされる意味 多職種連携・協働のためのチームづくり		
	6	第4章 協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働に求められる基本的な能力	多様な視点と受容が必要とする協働 課題解決に対する多職種のかかわり		
	7	第4章 協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働に求められる基本的な能力	多職種協働を成功させるための介護技術と知識 多職種とホスピタリティの視点		
	8	第4章 協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働に求められる基本的な能力	多職種連携に求められるコミュニケーション能力 (演習)チームに携わっているべき要素について		
	9	第4章 協働する多職種の機能と役割 保健・医療・福祉職の役割と機能	社会福祉士、介護支援専門員、医師、歯科医師、看護師、保健師		
	10	第4章 協働する多職種の機能と役割 保健・医療・福祉職の役割と機能	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士・栄養士、歯科衛生士		
	11	第4章 協働する多職種の機能と役割 保健・医療・福祉職の役割と機能	公認心理士、薬剤師、サービス提供責任者、その他		
	12	第4章 協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働の実際	専門職連携実践とは何か 多職種における地域での連携・協働		
	13	第4章 協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働の実際	特別養護老人ホームの連携の実態調査から自立支援介護における多職種連携の実際		
	14	第4章 協働する多職種の機能と役割 保健・医療・福祉職の役割と機能および多職種連携・協働の実際	保健・医療・福祉職の役割と機能および多職種連携・協働の実際に関する総合的な演習		
15	総合まとめ	協働する多職種の機能と役割のおさらい			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	介護の基本IV		担当教員  (実務経験)	阿部 幸恵  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 看護師として病院に勤務	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	①介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を学ぶ。 ②介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について学ぶ。				
到達目標	①介護における事故防止の基本的知識を理解し、危険予知と危険回避が考えられ述べることができる。 ②労働環境の管理について理解ができ、自己の健康管理ができる。				
テキスト・参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ 第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	・左記レポートは授業内で課題を提示します。その際の提出用紙、内容、提出期限に該当します。 ・左記「その他」については、グループディスカッション時の参加態度、姿勢、発言、記録、質疑応答、自らメモを取り考える、などの主体的な取り組み姿勢を求めます。		
	レポート	20%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	20%			
履修上の留意事項	テキストを基本とし、板書・プリント・グループディスカッションによる学習を行います。当該科目は、これまで学んできたことの応用や実践知識の展開がなされていきます。多角度から物事を捉えられるように、柔軟な発想が出来るよう心がけましょう。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	第3章 介護における安全の確保とリスクマネジメント 第1節～2節 安全の確保 リスクマネジメントとは	介護における安全の確保の重要性 介護事故と介護過誤 事例検討		
	2	第2節 リスクマネジメントとは何か	苦情解決制度と事例検討 身体拘束		
	3	第2節 リスクマネジメントとは何か	組織体制の理解、ハインリッヒの法則、グループワーク		
	4	第2節 リスクマネジメントとは何か	生活の中のリスクと対策、医療行為の確認		
	5	第2節 リスクマネジメントとは何か	AKTシートを通し学びを深める グループワーク		
	6	第2節 リスクマネジメントとは何か	非常災害を考える 安全を確保するには		
	7	第3章 介護における安全の確保とリスクマネジメント 第3節 感染症対策	高齢者の特徴、感染症の基礎知識		
	8	第3節 感染症対策	生活の場での感染症対策 感染症発生時の対応		
	9	第3節 感染症対策	主な感染経路 個別の感染症対策 グループでまとめ作問する		
	10	第3節 感染症対策	薬剤耐性菌の理解 感染に関するまとめ グループで作問する		
	11	第5章 介護従事者の安全 第1節 健康管理の意義と目的	労働基準法、労働安全衛生法、労働者災害補償保険法などの法制度		
	12	第2節 心の健康管理	ストレスとは何か、その対処法と介護従事者がかかりやすい病気		
	13	第3節 身体の健康管理	介護従事者の健康障害 腰痛予防対策の考え方と取り組み・グループワーク		
	14	第3節 身体の健康管理	腰痛対策・予防について各グループより発表		
15	全体のまとめ	今までの振り返り			



2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	手話	担当教員  (実務経験)	山本 浩司  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数(1回90分)	8回	時間数	15時間
授業目的	聴覚障がい(者)を理解し、手話や指文字、口話などを使って伝え合う方法を学ぶ。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己紹介など簡単な手話ができる。</li> <li>「手話」「聴覚障がい」について基本的な事柄の説明ができる。</li> </ul>				
テキスト・ 参考図書等	『さっぼろの手話』 さっぼろの手話編集委員会 公益社団法人札幌聴覚障害者協会				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	授業後のまとめ(提出物)などを含めて、「手話などの読み取り」や「課題文の手話表現」「聴覚障がい」「手話」の基本的理解の観点で評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	20%			
	その他	10%			
履修上の 留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書をもとに、日常生活を想定した基本的な手話を学ぶ。(実技)</li> <li>ビデオなどで実際のコミュニケーションを学ぶ。・手話などの学習をとおして豊かな表現力を身につけてほしいと思います。</li> <li>聴覚障がい者と出会ったとき、積極的にコミュニケーションする人になってほしいと願っています。</li> </ul>				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	表現し、伝え合ってみよう	手話などの基本的な理解、挨拶等の表現		
	2	名前や誕生日、出身等の紹介	自己紹介(名前や年齢等)、歌の手話表現(1)		
	3	家族の紹介、趣味の紹介	自己紹介(趣味や家族等)、心情の表現、歌の手話表現(2)		
	4	食事会、道案内、明日の予定	連絡、相談、報告、歌の手話表現(3)		
	5	数字の使い方、指文字	数単位、指文字の使い方、歌の手話表現(4)		
	6	仕事の話、身近なできごと	日常会話1(伝え方の工夫)、歌の手話表現(5)		
	7	どうしたんですか？	日常会話2(質問と応答)、歌の手話表現(6)		
	8	自己紹介(スピーチ)	復習(短いスピーチの表現と読み取り、歌の手話表現)		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					

授業科目 (科目ID)	点字	担当教員  (実務経験)	前佛 誠  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数(1回90分)	8回	時間数	15時間
授業目的	介護福祉学科に学び、将来関係する職に就く者が、視覚障害者用(盲人用)文字としての点字を正しく理解し、障害者のコミュニケーション手段として、ある程度活用できることは意義深いことである。読み方、書き方の基礎・基本を中心に、正しい表記法で簡単な点字文章が書ける程度までを期待したい。また、点訳ボランティアの仕事に興味を持っていただけるとありがたい。				
到達目標	点字表記法の基本を理解し、簡単な点字文章の読み書きができる。				
テキスト・参考図書等	『点訳のしおり(2021(令和3)年4月20日新版発行)』 社会福祉法人日本点字図書館				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	毎回の提出物の評価及び「読み」・「書き」を中心としたテストにより成績評価を行う。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	20%			
	その他	%			
履修上の留意事項	プリント及びテキスト「点訳のしおり」を活用し、いずれの回も点字文を作成し、毎回提出する。点字は、「読む」場合と点字盤で「書く」場合とでは表裏の関係になる。毎時間の授業が常に大切である。8回という非常に少ない授業時数であるので、気を抜くことなく授業に参加することを期待する。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション、盲人用文字	視覚障害者と文字、点字の歴史、身の回りの点字、50音		
	2	点字の読み書き(1)	濁音、半濁音、拗音、撥音、促音、長音、数字 等		
	3	点字の読み書き(2)	アルファベット、外来語、各種記号、各種点字器 等		
	4	点字の表記法(1)	仮名遣い、数字・アルファベットを含む文 等		
	5	点字の表記法(2)	分かち書きの原則① 等		
	6	点字の表記法(3)	分かち書きの原則② 等		
	7	書き方の形式他	分かち書きの原則③、各種書式、点字文章の読み書きドリル 等		
	8	点字文章の作成とまとめ	点字表記法の復習、点字文章作成、まとめ		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	生活支援技術Ⅰ		担当教員  (実務経験)	加藤 聖子  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。特に本講義では家庭生活にかかわる食生活の基本知識を学び、さらに家事支援の意義と目的を理解し、様々な場面に応用できる技能を高めることを目標とする。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食生活に関わる基本の知識・技術を身につけ、生活に応用させる。</li> <li>・サービス利用者の状態や状況に応じた、安全で効率の良い家事支援とその留意点などについて説明することができる。</li> </ul>				
テキスト・参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ 第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 『オールガイド食品成分表2023』 実教出版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	定期試験、講義中のミニテスト、提出物から総合的に評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	10%			
	提出物	30%			
その他	%				
履修上の留意事項	教室で教科書・プリント・視聴覚機器を使用する講義と、家政学実習室を使用し演習を行います。定期試験、講義中のミニテスト、提出物、実習の取組姿勢から総合的に評価します。提出物の提出期限を守ること、積極的に授業に参加することを心掛けてください。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	家庭生活の営み①	食生活の基本知識①食文化、食生活の変化		
	2	家庭生活の営み②	食生活の基本知識②栄養の理解(炭水化物、脂質)		
	3	家庭生活の営み③	食生活の基本知識③栄養の理解(たんぱく質、無機質、ビタミン)		
	4	家庭生活の営み④	食生活の基本知識④献立の立て方・食品の購入と選択		
	5	家庭生活の営み⑤	食生活の基本知識⑤高齢者・障がい者の食事と調理		
	6	家庭生活の営み⑥	食生活の基本知識⑥疾患と食事		
	7	家事支援における介護技術①	調理実習レポートの書き方、実習室の使い方、掃除とごみ捨てについて		
	8	家事支援における介護技術②	第1回調理実習 献立に基づく栄養価計算、食品の調理性、技法		
	9	家事支援における介護技術③	" 実習・反省、次回の実習について		
	10	家事支援における介護技術④	第2回調理実習 生活習慣病予防の食事、食品の調理性、技法		
	11	家事支援における介護技術⑤	" 実習・反省、次回の実習について		
	12	家事支援における介護技術⑥	第3回調理実習 高齢者・障がい者向けの食事、食品の調理性、技法		
	13	家事支援における介護技術⑦	" 実習・反省、次回の実習について		
	14	家事支援における介護技術⑧	第4回調理実習 高齢者・障がい者向けの食事、食品の調理性、技法		
15	家事支援における介護技術⑨	" 実習・反省、次回の実習について			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	生活支援技術Ⅱ		担当教員  (実務経験)	武内 玲美  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	尊厳や保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。特に本講義では、生活支援における家庭生活にかかわる基本知識を学ぶことに重点を置き、さらに家事支援の意義と目的を理解し、様々な場面に応用できる知識・技術の習得を目的とする。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭生活に関わる基本の知識・技術を身につけ、生活に応用させることができる。</li> <li>・サービス利用者の状態や状況に応じた、安全で効率の良い家事支援とその留意点などについて説明することができる。</li> </ul>					
テキスト・参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ 第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	70%	定期試験、提出物から総合的に評価する。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	30%				
	その他	%				
履修上の留意事項	教室で教科書・プリントを使用する講義と、家政学実習室を使用し演習を行う。定期試験、提出物、実習の取組姿勢から総合的に評価します。提出物の提出期限を守ること、積極的に授業に参加することを心掛けてください。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	生活支援とは何か	生活を理解する視点・生活支援の基本的な考え方			
	2	家庭生活の理解	家庭生活の営みとは 問題演習①			
	3	家庭生活の理解	生活設計の考え方(家庭管理)			
	4	家庭生活の理解	生活設計の考え方(家庭経済) 問題演習②			
	5	家庭生活の営み	被服生活の基本知識①(被服の機能・被服の管理)			
	6	家庭生活の営み	被服生活の基本知識②(被服の素材) 問題演習③			
	7	家庭生活の営み	被服生活の基本知識③(被服の洗濯)			
	8	家庭生活の営み	被服生活の基本知識④(皮膚の衛生保持・管理) 問題演習④			
	9	家庭生活の営み	被服の裁縫(裁縫の基本①)			
	10	家庭生活の営み	被服の裁縫(裁縫の基本②)			
	11	家事支援における介護技術	被服の裁縫(裁縫の基本③)			
	12	家事支援における介護技術	被服の裁縫(裁縫の応用①)			
	13	家事支援における介護技術	被服の裁縫(裁縫の応用②)			
	14	家事支援における介護技術	被服の裁縫(裁縫の応用③)			
15	まとめ	重要項目の確認と演習問題				

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	生活支援技術V		担当教員  (実務経験)	山谷 博美  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護福祉士として介護老人保健施設に勤務	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	30回	時間数 60時間
授業目的	障害があっても自立を目指し、個性を尊重した介護の展開ができるための知識と技能を習得することを目的とする。また、これまでに学んだ生活支援技術の知識や技術を基礎として、多様化する社会や日々進化する生活支援に対応するための技術を学ぶ機会とする。				
到達目標	各領域の障害について理解し、生活全体に着目した汎用性の高い生活支援技術の知識と技法を身につける。また福祉用具、介護ロボットや地域支援における介護福祉士に必要な知識を身につけ、対象者の能力に応じた福祉用具等の選択や活用ができる能力を習得する。				
テキスト・参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 『最新・介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 『最新・介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 『福祉用具専門相談員研修テキスト』シルバーサービス振興会 日本医療企画				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	その他については、実技達成状況の評価とする。		
	レポート	0%			
	小テスト	10%			
	提出物	20%			
	その他	10%			
履修上の留意事項	1～3コマを実施後に介護実技試験を行います。自信をもって実習に臨めるよう繰り返しの練習をしましょう。26～28コマは、普通救命講習Ⅱの修了を目的に実施します。実施日に遅刻・欠席の場合、補講は行いません。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	介護技術の総まとめ(山谷)	移動《実技》		
	2	介護技術の総まとめ(山谷)	着脱《実技》		
	3	介護技術の総まとめ(山谷)	排泄《実技》		
	4	視覚障害に応じた介護①(山谷)	視覚障害者の生活理解と観察視点		
	5	視覚障害に応じた介護②(山谷)	ガイドヘルプ《実技》		
	6	福祉用具①(山谷)	福祉用具の意義と活用①		
	7	福祉用具②(山谷)	福祉用具の活用①(施設見学)		
	8	福祉用具③(山谷)	福祉用具の活用②(施設見学)		
	9	介護ロボット①(山谷)	介護ロボットの現状と展望		
	10	介護ロボット②(山谷)	介護ロボットの活用①(施設見学)		
	11	介護ロボット③(山谷)	介護ロボットの活用②(施設見学)		
	12	福祉用具作成①(山谷)	事例検討①		
	13	福祉用具作成②(山谷)	事例検討②		
	14	福祉用具作成③(山谷)	事例検討③		
15	福祉用具作成④(山谷)	事例報告会			

16	肢体不自由に応じた介護(泉)	肢体不自由の理解 観察の視点 支援の展開
17	感覚器障害に応じた介護(泉)	感覚器障害の理解 重複障害(盲ろう)の理解 観察の視点 支援の展開
18	心臓・呼吸機能障害に応じた介護(泉)	【内部障害】心臓機能障害の理解 呼吸機能障害の理解 観察の視点 支援の展開
19	腎臓機能障害・肝臓機能障害に応じた介護(泉)	【内部障害】腎臓機能障害の理解 肝臓機能障害の理解 観察の視点 支援の展開
20	排泄機能障害・HIVによる免疫機能障害に応じた介護(泉)	【内部障害】膀胱・直腸機能障害の理解 小腸機能障害の理解 HIVによる免疫機能障害の理解 観察の視点 支援の展開
21	重症心身障害、知的・精神障害に応じた介護(泉)	重症心身障害の理解 知的障害の理解 精神障害(統合失調症 気分障害)の理解 観察の視点 支援の展開
22	高次脳機能障害・発達障害に応じた介護(泉)	高次脳機能障害の理解 発達障害(自閉症スペクトラム障害 注意欠陥多動性障害)の理解 観察の視点 支援の展開
23	筋萎縮性側索硬化症(ALS)・パーキンソン病に応じた介護 悪性関節リウマチ・筋ジストロフィーに応じた介護(泉)	【難病】筋萎縮性側索硬化症(ALS)とは パーキンソン病とは 悪性関節リウマチとは 筋ジストロフィーとは 観察の視点 支援の展開
24	部位別の障害に応じた介護(障害別介護のまとめ)(泉)	上部・下部機能の障害別の介護
25	応急手当の知識と技術 災害時における生活支援(泉)	応急手当とその実際 被災地で活動する際の心構え 災害時における生活支援
26	緊急時の対応 救命講習(泉)	普通救命講習Ⅱ[講義]
27	緊急時の対応 救命講習(泉)	普通救命講習Ⅱ[実技]
28	緊急時の対応 救命講習(泉)	普通救命講習Ⅱ[実技]
29	人生の最終段階における介護(泉)	人生の最終段階の意義と介護の役割
30	人生の最終段階における介護 まとめ(泉)	人生の最終段階における介護 授業の振り返り

